

医学系研究科・医学部 附属病院だより

秋田大学大学院医学系研究科・
医学部・附属病院

第710号平成25年1月25日

(院内通報・第300号から継続)

◆ 病院 本道ミレニウム通信 ◆

手術支援ロボット・ダ・ヴィンチ導入で感じたこと

秋田大学医学部附属病院 副病院長 羽瀨 友則

『ダ・ヴィンチ買ってもらいました』と言ったら、『高かったですよね!?!』という返事が出てくるのは絵の事ではなく、今や手術支援ロボットが巷の話です。秋田大学医学部附属病院にも遂に手術支援ロボットのDaVinci Surgical Systemが入りました。この支援ロボットは腹腔鏡手術においては非常に優れたもので、以下のような特徴があります。①3Dの画像(3Dの遊園地のような画面で手術ができます。実世界よりリアル)、②ミクロの決死圏のような感じ(拡大視野が優秀で、鉗子が細いため、体の中に自分が入っているような感覚)、③信じられない鉗子操作範囲(鉗子は細く、鉗子の関節可動域は人間のそれをはるかに超えています。また手ブレ防止機構がついているので、自分の手術をビデオで見ても非常に爽やか)。④術者に優しい(患者さんにも優しいですが、術者にも優しい。術者は手洗いもせずに、PHSに入った問い合わせにも応答しながら手術ができる。目が少々疲れるが、長時間の腹腔鏡手術のあとの肩、腰、手首の疲れから開放)、です。秋田大学では、現在ダ・ヴィンチを使った手術は泌尿器科だけですが、外科系各科で利用が進むよう画策したいと思います。3D画像での見学はいつでも可能ですので、是非、手術室に体験しに来てください。

さて、このダ・ヴィンチ導入にあたって感じたことが2つあります。①看護師と臨床工学技士さんの成長ぶりに大いに感動、②全てにプロトコール通りに厳格に進める欧米型に少し敬服、です。

②から説明します。このダ・ヴィンチ導入にあたっては、米国本社のIntuitive社の非常に厳密なプログラムをこなさないと手術の稼働が許されない規定になっています。感動したのは「日本の企業がここまで出来るのかな?」ということです。ダ・ヴィンチが納入されると、施設内(大学)でのチーム立ち上げを依頼されます。次に機器取扱教育、教育プログラム、実技プログラム、等が次々と用意されており、その都度担当者は指導やスーパーバイズに秋田に来ます。術者の機器操作の練習時間も「20時間以上をこなしていただく」という規定があります。また術者になろうとするものは2日間の動物トレーニングを東京か名古屋で受ける必要があります。このトレーニングコースのプログラムも我々が学会で行っている指導プログラムよりガチガチに番組が規定されています。手術見学も指定された施設にチームメンバーの看護師と一緒に出向いて学習します。ダ・ヴィンチという機械の特殊性を考えても、ここまで日本の企業が機器導入後にもその運用を厳密にコントロールすることを考えたのでしょうか?ある意味、宗教的・布教活動的な規律を感じたのは私だけでしょうか?さらに医療安全的というと、ここまでしっかりと規定するのは非常に好ましいシステムです。

もっと感動したのは①です。この厳格な導入プログラムと規定、ダ・ヴィンチの設置と準備に伴う大変さ、手術前準備の煩雑さ、工程の多さにかかわらず、手術室看護師のTさん、Nさん、Kさん、臨床工学技士のNさんのみるみる成長したシッカリ度に感動しました。同時に感謝です。「成長」というと失礼と言われるかもしれませんが、もともとシッカリしていましたよね。)Well done秋田人。

以上ダ・ヴィンチ導入にあたって、余裕を持った教育とか指導システムを構築することが、如何に大事かということをお教えいただきました。重要なことを実行するには、日本人的「B29を竹槍的」突貫根性型事業ではなく、合理的なプログラムを組んで必要なヒト、時間とお金をかけて物事を進めないと結局は戦争に負け、医療、原発、防災、等の問題も解決しないような気がしました。日本と秋田大学医学部附属病院にそのような余裕ができることを祈念しつつ、その余裕ができるよう努力したいと思います。

最後にこのダ・ヴィンチは秋田県の予算で購入していただきました。ダ・ヴィンチ導入にあたって大きなご支援とご援助を頂いた佐竹敬久知事、吉村昇学長、秋田県庁の方々、手術部看護師長に深謝申し上げます。